

# syou 旬



地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

**理念** 140年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

## 基本方針

<b>患者中心の医療</b> 患者の人権と意思を尊重します	<b>診療3本柱</b> がん・救急・予防医療を中心に医療機能の充実を図ります	<b>完結型医療</b> 地域の医療機関と連携し安心できる医療の展開を行います	<b>地域包括ケア</b> 地域包括ケアシステムを推進し地域のまちづくりに貢献します	<b>社会貢献</b> 災害医療派遣・医療情報公開・医療ボランティアの活動を行います	<b>医療人育成</b> 地域医療に貢献できる医療人の育成を行います
----------------------------------	--	--	---	---	---------------------------------------

## 3年ぶりに開催！JCHO人吉医療センターフェスティバル



ステージ発表（和太鼓演奏）



ポスター表彰



おとな絵手紙等展示



ピアノコンサート：馬場敬子様、木村院長、馬場貞至様



10月16日(日)に3年ぶりとなる第14回 JCHO人吉医療センターフェスティバルを開催しました。

私は今回実行委員となり、事前に計画を立て準備を行い、当日はステージ運営のサポートや会場設営等を行いました。3年ぶりの開催で私も含め、初めて参加する職員も多く、不安もありましたが、704名の方にご来場いただき、盛況のうちに終了することができました。

今回コロナ禍での開催であり、各部署感染対策を行いながら、工夫を凝らしたさまざまなブースを準備しました。血糖測定や骨密度測定等、自身の健康について知ってもらうブースや薬剤師のお仕事や心臓マッサージ・AED等、実際に体験していただくブースなどさまざまあり、小さな子供から大人の方まで楽しん

でいただいている様子が伺えました。

また、講堂では歌とピアノの恩返しコンサート、ステージでは和太鼓の演奏やよさこいのパフォーマンス、くまモンの登場等大盛況となりました。そして屋外には、数多くの飲食店が設置され、多くの方々に楽しんでいただけました。

今回のフェスティバルは、地域の皆様に健康について考えていただき、また当院の取り組みについて知っていただく良い機会となったのではないかと思います。

この度、ご来場いただきました皆様、ご協力をいただきました皆様には心より感謝申し上げます。これからも安心・安全な医療を提供し、地域に信頼される病院となれるよう努めて参ります。

経理課 西村 優花

## 災害実働訓練開催 ～ IT 化へ向けて～

令和4年10月16日(日)人吉市総合防災訓練が実施され、当院も共催として災害実働訓練を行いました。

災害想定は、日曜日の午前中、数日前から雨が降り洪水注意報が出ていたが小康状態、朝より雨が降り止まず、徐々に雨量が増え線状降水帯も停滞し球磨川の水位が上昇してきている状況を想定。水害ステージ3(仮本部設置)からスタートし氾濫が発生するレベルステージ7(応急対応)まで実施し、実際に患者の受け入れと各エリア活動展開まで執り行いました。

今回の訓練は、清水建設協力のもとIT(MCP支援システム)化を図り、情報共有と位置情報を活用した「見える化(可視化)」をテーマに取り組みました。豪雨時の河川水位を事前に予測するRRIモデル(豪雨災害タイムライン)をもとに、河川状況やそれに応じた対処状況をシステム(画面)で段階的にチェックし、各エリアで活動しているスタッフ数やエリア状況を対策本部にてリアルタイムで確認できるようシステム化を図りました。

発災時、全スタッフに発信する安否確認や緊急召集をメールにて一斉連絡できる安否確認システムを利用し、今回実際に連絡確認を行いました。

また、人吉医療センターアマチュア無線クラブ(JG6YID)

は、本部や各避難所、五木村役場と被災情報等の発信をおこないました。

今回の訓練は、アマチュア無線有資格者である歯科口腔外科の石神医師が担当し、当院の被災状況報告等を本部へおこないました。訓練中には、シナリオに無い問いかけがあったりと、臨機応変に対応する力を高めることができたのではないかと思います。

広域災害時に情報を共有するためのツールを多数保有することは重要なことであり、今後も地域のアマチュア無線クラブの協力を得ながら、災害拠点病院として多くの地域、行政機関と繋がっていききたいと思っています。

今後も訓練と振り返りを積み重ね、システム化に向けた体制整備の構築も行いながら、入院患者の安全とより多くの傷病者の救命に繋がれるよう取り組みを強化していききたいと思います。人吉医療センター地域協力会の皆さんやボランティアの方々、人吉アマチュア無線クラブの皆さん等々、今回もたくさんの方々のご協力をいただきました。感謝申し上げますと共に、これからもどうぞ宜しくお願い致します。

災害対策・防火委員会 医療福祉連携室 野々上 真一



本部



エリア展開



アマチュア無線交信

### 教えて!! 片瀨先生～ Vol.4

## 「機能性と器質性」

### ～聞き慣れない言葉ですが、病気を理解するために～

秋たけなわ、清々しい秋晴れの下、掘り出された大きなサツマイモに欣喜雀躍の子ども達の姿がまぶしい季節です。

胃が痛い、誰も経験するありふれた症状です。多くは環境の変化などのストレスによるものですが、実は胃潰瘍や胃癌かも知れません。前者は『機能性疾患』と呼ばれ、胃に何も異常が無くても胃の働きを調節している自律神経の乱れによって痛いと感じるものです。後者は『器質性疾患』で、胃そのものに何かの病変があるもので、内視鏡検査などで原因となる病気がみつかります。

女性の「不正性器出血」は、通常の月経(生理)以外にみられる出血で、やはり『機能性』と『器質的』に分けられます。女性の月経周期は、卵巣で作られるエストロゲン(卵胞ホルモン)とプロゲステロン(黄体ホルモン)の2つのホルモンの精緻なバランスによって形づくられています。思春期や更年期、ストレスや体重の大きな変化、激しい運動を続けるアスリートなどではこのバランスがうまく保たれず、

『機能性出血』と呼ばれる不正性器出血が起きることがあります。『器質性出血』は、子宮内膜ポリープ、子宮筋腫や子宮腺筋症などの良性疾患、子宮体癌や子宮頸癌などの悪性疾患の病変から出血するもので、エコーやMRI、細胞の検査などで確認されます。

最も注意していただきたいのは、40代～50代の不正性器出血です。閉経前後の『機能性出血』と思い込んでいたものが、子宮体癌や子宮頸癌などの『器質性疾患』であった患者さんを数多く診てきました。高齢の子宮体癌の患者さんが「また月のものがきました」と言って受診なさったことを思い出します。「いつもと違う出血」と思ったら、ぜひその時点で産婦人科を受診して下さい。

産婦人科 片瀨 秀隆

片瀨先生外来 毎月 第1・3・5水曜日  
(要予約・予約センター 0966-22-1900 (平日時間内))

## 地域医療構想 松田 晋哉先生 Web 研修会

9月16日 地域医療構想 Web 研修会を開催しました。今回は、産業医科大学医学部 公衆衛生学教室 教授 松田 晋哉先生より『球磨医療圏の医療介護サービス提供体制のこれからを考える』と題して様々なデータを用いて、当地域及び周辺地域の医療資源や医療機能の現状、課題を具体的に提示していただき、これから目指す地域の医療提供体制の在り方についてご講演いただきました。当日は Web での開催もあり、人吉球磨地域をはじめ、近隣の宮崎県えびの市、鹿児島県伊佐市から医師、薬剤師、看護師、行政等の多くの方々にご参加いただきました。

今回の参加者の方からコメントをいただきましたので、掲載をさせていただきます。

今回、松田晋哉先生の地域医療構想の web 研修会に参加させて頂き誠に有難うございます。松田先生のお話の中で DPC 公開データ、NDB 公開データ及び人吉球磨地域の病床機能報告を基にした各医療機関の実態、位置付けの分析により、地域に充足、不足している医療資源などの現状が鮮明に浮き彫りとなった事に驚愕しました。松田先生の地区診断の中で在宅訪問診療系の値は低く、療養病床地域包括ケア病棟、有床診療所入院機能は全国よりも高いとの事。進む高齢化の中で COVID-19 パンデミックを経験し、コロナ急性期後の出口問題を体験した今、医療介護、入院、入所、在宅を柔軟に支える地域医療構想と地域包括ケアシステムの構築が急がなければならないと痛感しました。

人吉市医師会（田中医院 田中 洋一先生）

球磨郡医師会で地域医療構想担当理事を仰せつかっております、湯前町のそのだ医院の坂田と申します。人吉球磨地域の中で限られた医療資源を有効活用する術を、皆様のご指導を仰ぎながら共に模索していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

球磨郡医師会（そのだ医院 坂田 敬先生）

目の前の事柄を解決することに追われている毎日ですが、将来の我が町はどうなるのか？今回の研修では、データを基に、まさに〇〇年後の我が町は・・それに対応していくには、どのようなことに取り組むべきか その考え方を示して頂いた研修でした。自治体の総合計画と地域医療構想をしっかりとリンクさせ、医療と介護の確保のできた住みよいコンパクトなまちをめざして取り組みを進めたいと思っております。研修の機会を頂きました事に、感謝いたします。

人吉市役所 健康福祉部 淵上 麻美氏

## ～心の癒しを～ 有島京さんピアノコンサート開催

今年8月から当院3階講堂にグランドピアノを設置しております。このピアノは熊本大学教育学部で長い間、多くの音楽科学生、卒業生に愛されたもので、音楽棟建て替えのための大型改修工事に伴い、令和2年7月豪雨で被災した当院に、未だ復興の道のりが険しい人々の心を癒す楽器として、音楽会や公演等に活用してほしいと贈られました。初めての催しとして10月5日に院内ピアノコンサートを開催しました。人吉出身のピアニスト有島 京(みやこ)様をお招きし、ご演奏いただきました。

有島様からはじめに「弾き初めという素敵な場面に呼んでいただき、心から感謝しています。2020年コロナ禍、元々大変な仕事に加えて仕事が増えたり、気を遣われたり、なかなか終わりの見えない大変な仕事をされているかと思っております。そういう中で目に見えない音と同じ空気の中で皆

さんと感じあえるということはかけがえのないこと、普段のコミュニケーションでも言葉だけではなく、見えないもので感じ取りながら人間というものは生きているんだと改めて感じています。」とご挨拶いただきました。

演奏の合間には「ピアノという楽器は他と違って自分と一緒に移動ができない楽器。ピアノを寄贈いただいて、動かない楽器がやってくるおかげで、それを通じて人が集まり、音楽ができるんだと思います。そんな素敵なことが、今後この医療センターとピアノの周りでたくさん起こることを心から願い、また私も演奏させて頂ける日が来ればよいなと思います。」と締めくくられました。

曲目はパデレフスキ「伝説」からショパン「24の前奏曲」の中の最後の11曲・変二兆調「雨だれ」から、最後には「バラード第一番」をご演奏いただきました。生の演奏ならではの音の響きがあり、とても迫力ある演奏で心が洗われるようでした。

今後、ピアノは心の癒しとして催し物や音楽会に活用させていただきますと思います。

最後になりましたが、寄贈いただきました熊本大学の関係者の方々、今回演奏いただきました有島様に厚く御礼申し上げます。

医療福祉連携室 宮原 由佳



## 研修医挨拶

済生会熊本病院所属研修医の木脇と申します。9月の4週間、主に小児科と救急外来で研修をさせていただきました。

慣れない環境で多々ご迷惑をおかけしたことと思いますが、先生方、看護師さんの方々、研修医の先生方、事務の方々等多くの方にとっても親切にさせていただき、大変充実した研修をさせて頂くことができました。

小児科の研修では普段子どもをみるのがほとんどなかったので、どのように診療していくのか分かっていませんでした。今回、様々なお子さんをみる経験ができ、どのように診療されるのか学ぶことができました。子ども特有

の症状について学ぶことができ、とてもよかったです。

救急外来では当直の先生と看護師さん、研修医の先生に当直での動き方を教えていただき、とても助かりました。ありがとうございました。外来で肘内障の方の整復をさせていただいた感動は一生忘れないと思います。

4週間という短い期間の研修でしたが、人吉の方々は皆さんとても温かく、また食事もとてもおいしかったです。人吉に来たのは初めてですが、人吉のことがとても好きになりました。今後もちょうちょうお邪魔するかもしれないです。その際はどうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、4週間大変お世話になりました。ありがとうございました。

済生会熊本病院研修医 木脇 領太

## 地域医療研修 in 沖永良部

今夏、沖永良部島:朝戸医院での地域研修を行いました。奄美諸島の1つである沖永良部島は、人口およそ1万3千人が暮らす、自然豊かな場所です。院長先生、俊行先生をはじめ、スタッフの方々には大変親切にご指導いただき、非常に充実した毎日を経験しました。外来での診察や処置、訪問診療や救急車対応など、またデイサービスのレクリエーション参加や、敬老会への出席、さらに入院患者さんの100歳記念としての町長からの表彰式に同席させていただくなど、幅広く経験させていただきました。スタッフの皆さんが、外来に来られる方だけでなくそのご家族のこともよく把握されており、島の密な関係を肌で感じました。毎週のように台風が通過し、しばらく船の往来が中



止になったことも、島ならではの経験でした。歴史民俗資料館や西郷記念館などの見学で島の文化を知ることは、島民の方々の生活背景、求める医療について理解する助けとなりました。離島研修が今後の医療者としての人生において大切な財産になったと確信しております。皆さまも一度は沖永良部島に旅をされてはいかがでしょうか。

臨床研修医 中島 凌

## 特別臨床実習感想

今回、消化器外科実習として外科にて3日間実習する機会を頂きました。人吉医療センターを選択した理由は、以前人吉市を訪れた際に、風光明媚な球磨川の景色や豊かな食文化に感銘を受け、ふたたび訪れたいと感じたからです。また、人吉・球磨地方の地域医療支援病院である人吉医療センターでは、普段の熊本大学病院での実習とは異なった経験や発見が得られるのではないかと、希望しました。

3日間を通じて、医療センターにおける外科の特徴や大学病院との違いに関して学ぶ点が多々ありました。具体的には、外科領域で臓器の区別なく手術が行われている点や、初診から手術、術後管理から退院まで院内で完結可能な点です。実際の実習では、主に手術見学を行い、外科の先生方から解剖の確認や術式のご説明に加え、手技に関して直

接のご指導を頂きました。消化器疾患に加え、乳腺や鼠径ヘルニアの手術を見学し、実際に縫合を行う機会もあり大変勉強になりました。また、HCUや病棟での回診を見学し、術前・術後管理の様子を知ることも出来たと思います。



最後に、この度の実習を行う機会を頂いた先生方をはじめ、病院関係者の皆様、直接のご指導を頂いた外科の先生方、初期研修についてお話しいただいた研修医の先生方にお礼申し上げます。誠にありがとうございました。今後も他科の実習や卒業試験および国家試験と、医師として働くまで長い道のりがありますが、誠実に学習に取り組もうと思います。

熊本大学医学部5年 柳田 悠太郎

## 11/14は 世界糖尿病デー

11月14日は「世界糖尿病デー」として糖尿病の予防、治療、療養を喚起する啓発運動を推進するため、国連及び主要国で様々なイベントが開催され、国内でも、日本糖尿病学会、日本糖尿病協会が中心となって、各地で著明な建造物をブルーにライトアップして、街頭での啓発活動を実施しています。

当院でも11月1日からブルーのライトアップを行い、11月14日には外来にブースを設け、外来患者さん対象ではありますが、健康チェックや相談コーナー等設ける予定です。

皆さまも世界糖尿病デーのイベントに参加して、糖尿病予防にむけ、ご自分やご家族、大切な人とともに、糖尿病について考えていただく機会になればと思います。

## 地域緩和ケア研修「ACPとは」開催

9月21日(水)当院の田安厚美 緩和ケア認定看護師が、『ACPとは～ガイドラインをもう一度～』をテーマに講義を行いました。

講義では、「がん患者の終末期や看取りのみがACPではなく、どの人も、その人がその人らしい人生をおくるために何を大切に生きたいか、そのために本人や家族、医療者に何ができるか。病気になってからだけではなく、健康な時からACPとは何かをきちんと知っておくこと、そして、いざというときに困らないよう普段から繰り返し話しあっておくことが大事」といったことが、ポイントを絞って伝えられました。

地域行政機関の方々や医療関係者に多数参加いただきましたが、参加いただいた方からは、「勉強になった」、「地域住民や健康な方々への周知、地域へ活かすことができるようにしたい」と、感想がありました。また、ACPの捉え方は幅広く、ACPと言葉を使用するタイミングや関係性、話し合う内容によっては、「『死ねっていうのか!』と、曲解される方もいるため、早い段階での周知が大事だが、その方法に悩む」、との感想もありました。病気になった直後のタイミングでは、上述の誤解も起こり得るでしょう。しかし、普段の健康な時からACPとは何かを理解していたならば、このすれ違いは回避できるかもしれません。

その人が理解できる言葉を用いながら、揺れ動く患者・家族の思いに配慮すること、気持ちは変化するものであると理解しておくこと、その上で、いざというときに困らないよう、本人や家族、病院や地域とどのように生きたいか



を繰り返し話し合っておくことは大切であることを再認識しました。

本研修を通じ、地域の方々に参加いただき共に学べたことは、ACPをより多くの方々に知ってもらうための、病院と地域（行政や施設、関連機関等）の繋がりを深める機会となりました。ACPは医療現場だけで完結するものではありません。地域住民の皆さま方にもご理解とご協力をいただきながら、今後もACPの輪を広げていきたいと思えます。

11月30日は「人生会議の日」となっています。当院でのイベントも予定しておりますので興味がある方は、是非ご参加ください。

医療福祉連携室 鶴田 真奈美

## DMAT 訓練報告 南海トラフ地震想定 大規模地震時医療活動訓練に参加しました

2022年10月1日(土)に内閣府主催の「大規模地震時医療活動訓練」が行われ、当院DMATも参加しました。この訓練は南海トラフ地震を想定し政府、都道府県、自衛隊、警察、消防、災害派遣精神医療チーム(DPAT)、災害時小児周産期リエゾン、DMAT、そして各医療施設などが相互の協力の円滑化を図ることを目的として毎年実施されている日本最大級の災害訓練です。

当院からは下川副院長、尾方看護師長、小栗看護師長、那須理学療法士、筆者が参加し、静岡県内でDMAT活動を行いました。私達は、まず富士山静岡空港に参集し、その後、藤枝市立総合病院内に立ち上げられたDMAT活動拠点本部の本部活動を行うよう指令を受けました。今回私は、活動拠点本部に到着するDMATの受付係を任せられました。私にとって今回がDMAT隊員になり、初めての災害訓練ということで、とても緊張しておりましたが、先輩DMATや藤枝市立総合病院のDMATの方が優しくサポートしてくださり、何とか役割を果たすことができました。静岡県の場合、海沿いの地域は、ほぼ全域で10m超、下田市に至っては30m超という巨大な津波が想定されてお



り、訓練の緊迫感も相当なもので、訓練終了と言われたときは、どっと疲労感が押し寄せる感覚がありました。

訓練自体は、移動日も含め、3日間でありましたが、最終日は、飛行機の時間まで少し時間がありまして、皆で名勝「日本平」に行き、富士山の絶景に心を癒され、帰路につきました。2年前の豪雨災害の時はDMATになったばかりで右も左もわからない状態でしたが、次に起こるであろう災害時には、自分の役割をしっかりと果たせるように、今後も訓練に励んでいきたいです。

画像診断センター 前田 竜一郎

## 皆様の大切な目の健康を守るお手伝いをします

### ～お仕事紹介：視能訓練士～

当院眼科は医師・看護師・視能訓練士の3名が在籍しています。今回はこの中でもみなさんにとって馴染みの薄いであろう視能訓練士について紹介させていただきます。

視能訓練士とは、1971年5月に視能訓練士法が制定され、同年初の視能訓練士が誕生しました。現在では約17,000名の資格取得者が存在します。

創生期には小児に対し斜視・弱視の視能訓練という専門分野のみを業務としていましたが、51年の月日の中で、視力向上や両眼視機能取得を目的とした「視能矯正」はもちろんのこと、眼科の一般検査をさす「視機能検査」、3歳児検診や就学時健診などの「健診（検診）業務」、視機能が著しく

低下してしまった方、一人一人に合わせた光学的補助具の選定や見え方を補う様々な工夫のアドバイスをを行う「ロービジョンケア」などに職域が拡大してきています。

高齢化がすすんだ中、乳幼児からご高齢の方まで、世代を超えて見る能力の維持を支え、皆様の大切な目の健康を守るお手伝いをしています。



視能訓練士 平岡 丈英

## 口腔ケアの大切さについて病院全体でサポート

### 歯科衛生士から病棟看護スタッフ向けに口腔ケア・口腔機能訓練 院内レクチャー

歯科口腔外科所属の中山亜里沙衛生士による、病棟スタッフ向けの口腔ケアと口腔機能訓練の勉強会を行いました。口腔ケアの目的は、口の中を清潔にすることで口腔内のトラブルを防ぎ口腔機能を維持・回復させ、また誤嚥性肺炎などの全身疾患も予防でき、全身の健康状態改善やQOL向上にもつながります。勉強会では、口腔機能と全身疾患との関係性、口腔ケア方法や適切な器具の使用法、簡単に行える口腔機能訓練の方法、入院患者様を想定した口腔ケアのポイントも写真を用いて説明しました。このような勉強会を通して、スタッフ全員が正しい知識や技術を身に付け、患者様一人一人の口腔状態を正しく評価し改善方法を立案することで、歯科医師・歯科衛生士とスタッフが円滑に連携し、質の高い個別の口腔ケアを維持できると考えます。今後も勉強会や院内発表などの啓蒙活動を積極的にを行い、病院全体で患者様をサポートできるよう努めてまいります。



歯科口腔外科 歯科医師 中村 康大

### 令和4年度人吉医療センター

## 緩和ケア研修会開催のご案内

当研修会は、がん等の診療に携わる全ての医師・歯科医師、緩和ケアに関わる医療従事者の方に基本的な緩和ケアについて正しく理解し、緩和ケアに関する知識、技術、態度を習得することで緩和ケアが診断の時から、適切に提供されることを目的として、「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」に沿って下記の通り開催します。

記

日時：2023年1月29日(日) 8時30分～16時50分

会場：JCHO人吉医療センター 3階講堂

参加費：無料

募集人数：15名程度

対象者：人吉・球磨に勤務されている方でがんに関わる医療従事者(医師、薬剤師、看護師、その他)で、2年以内のe-learning修了者。(※日本緩和医療学会のHPから各自で受講)

申込み方法：お電話またはホームページ (URL: <https://hitoyoshi.jcho.go.jp/緩和ケア研修会/>) からお申込み下さい。

以上

お問い合わせ先：JCHO 人吉医療センター

(Tel: 0966-22-2191/ 平日 8:30～17:00)

医療福祉連携室 杉松、鶴田



## 10月は臓器移植普及推進月間です。



臓器移植への理解が進むように普及啓発の取り組みが行われています。臓器移植法が施行された10月16日は、家族や大切な人と「移植」のこと、「いのち」のことを話し合い、お互いの臓器提供に関する医師を確認する日を「グリーンリボンデー」としています。この機会に、家族や大切な人と臓器移植や意思表示について考えたり、話したりしませんか？

医療福祉連携室 杉松 紗織

## 新任紹介



西本 拓真(看護師・5階病棟)

趣味：筋トレ、キックボクシング、パン屋巡り

特技：減量(1か月半で体重5～7kg落とせます)

自分のコマーシャル：不慣れなことが多く、

ご迷惑をおかけすると思います。1日でも早く慣れるよう頑張っていきたいです。

よろしく願います。

E-mail URL

